生活指導だより

令和３年１２月　１日
練馬区立開進第二中学校
第８号
（文責：中村　哲）

若さの特権

「９」と「４６」。この２つの数字を見て、パッと何なのかを頭に浮かべる人は、野球ファンだろう。メジャーリーグ、ロサンゼルス・エンゼルスの大谷翔平選手の２０２１年は、投手としては９勝２敗、防御率３．１８、１５６奪三振。そして打者としては、４６本塁打と１００打点、さらに２６盗塁という超絶記録をたたき出し、最終的にはアメリカンリーグの MVP を満票で受賞するなど「リアル二刀流」を成し遂げてしまった。彼の素晴らしいところは、プレーを支えるその人間性、つまり「大谷翔平という人間として、どう生きるのか。生きたいのか」という人生哲学に尽きる。先日のテレビで流れていた過去のインタビューからもそれが垣間見られる。

「高校時代、やはりベンチに入れなかった仲間たちが沢山いましたからね。だからグランドに立つ選手は彼らの分までプレーする義務があると思いますし…。今は、プロの選手としてやっていて、見てくれているファンの方々がいるわけですから、その期待に応えられるよう全力でプレーすべきだと思います。」

つまり、「常に全力で挑んでいく」というのが彼の哲学だ。だから多くの評論家から「プロで二刀流はまず難しい。ピッチャーかバッターどちらかにしないと…」と言われ続けたにもかかわらず、できることを全力でやるだけという彼にとって、二刀流はごく自然な選択だったのかもしれない。
確かに、渡米１年目の２０１８年に、投げては４勝、打っては２２本塁打をマークし、新人王にも選ばれたものの、同年のシーズン途中に右肘の手術を受けるなど度重なる故障が続いた。翌２０１９年には二刀流に復帰しながらも、投打ともに極度の不振に陥り、０勝、打率１割９分と低迷し、アメリカのメディアからも「二刀流の限界」がささやかれていた。うまくいかないことも多かった中、その度に立ち上がる原動力となったものは何なのか。

「一番は、やっぱり球場に足を運んでくれているファンの人じゃないかなと思います。（中略）　あとは自分がやっぱり、こうなりたいなと思った目標に対して、諦めきれない気持ちがそうさせてくれるのかなと思います。」

人は、「常識」や「習慣」に縛られる生き物だ。勿論それらが社会を機能させ、安定させている部分もおおいにある。大谷選手の場合も、彼自身の肉体的な疲労や、他の投手との当番日程調整というチーム全体に関わることなど幾多の懸念材料があったことと思う。しかし同時に、「常識」は、私たちにとって大切な“チャレンジ精神”を奪ってしまうこともあるのではないだろうか。「そんなの無理に決まってるじゃん」という、あのお決まりのセリフである。

アフリカに起源を発する私たちの先祖から始まり、いつの世も「常識」にとらわれないパイオニアたちが可能性という新しい扉をこじ開けてきた。大谷選手の他にも、「メジャーでは無理」「身体が小さいから通用しない」と酷評を受けながらも、結果、ノーヒットノーランを２度行い、８４年ぶりに最多安打を記録するなどの偉業を成し遂げてきた選手がいる。“イチロー”こと鈴木一朗さんもこう言って

はばからない。

「よく、通用するとか、しないとか、言いますよね。何言ってんだと思いますね。とても悲しい気持ちになります。野球に限らず、新しい世界に挑戦しようとしている人間に対して、それをやったことのない人間が、通用するのかって…。まったく失礼な話です。」

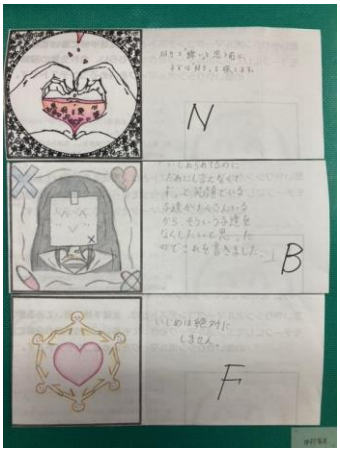
若さの特権は、飽くなき挑戦心にある。「どうせ」という自らつくった殻を突き破り、夢中になれることにまずは全力でアタックすること。２０２２年の大谷翔平選手はさらに先陣を切り、そのことを身をもって私たちに示してくれるだろう。

◆「ごみ」×「スポーツ」＝「楽しい」

いわゆる「使って役に立たなくなった紙くずや食物のくず、その他の廃棄物」を表す「ごみ」を漢字変換すると「芥」や「塵」といった漢字が出てきます。どうやらたまに目にする「護美」という漢字は「美しさを護る」という意味を充てたようですね。大谷翔平選手の話を冒頭で紹介しましたが、彼の人柄を表すもう一つに、「ゴミを拾う」というのがあります。彼がグランドや球場の通路、ベンチ内の通りすがりに落ちているゴミを拾っている姿がメディアによく取り上げられています。大谷選手曰く、高校時代の恩師から「ゴミを拾うことで運を拾う」と教わって以来、プロに入ってからも欠かさず行っているとのことで、また、実際にベンチの中だと、階段で転んだりする人もいるようで、そういうつまらないケガを、自分含め周りの人にもしてほしくないとの思いがあるのだそうです。

最近はゴミ拾いも地域のスポーツにしてしまうイベントもあり、チーム対抗で楽しんでいる姿をみると、一見面倒くさいことも、捉え方一つで楽しくもなるんだなと改めて感じさせてくれます。みなさんの午後の掃除も「面倒くさ～い」だけでやるのではなく、どうすれば楽しく、効率よく、キレイにできるか工夫してみるといいかもしれませんね。

◆思いやりシンボルマーク学年代表決定！



生徒会主催の「思いやりシンボルマークコンテスト」が今月２５日に行われ、全校生徒による投票の結果、右の写真に示した３点が、各学年代表として選ばれました。こちらの作品については開進二中の代表として練馬区教育委員会に提出いたします。がんばってくれた生徒のみなさん、素晴らしい作品をありがとう！　そして、思いやりあふれる学校を全員で作っていきましょう！

◆１２月の月間目標

★努力できることが才能です。

今年（２学期）のまとめをし、
来年（３学期）の目標を考えよう

～自主的に日々努力できる学校生活のために～